デジタル版
2025年
10月23日号
Vol. 181

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

三菱重工が三菱ロジスネクストをJIPに売却

京都府長岡京市神足にある三菱重工のバッテリーフォークリフト大手である子会社の三菱ロジスネクスト（以下三菱ロジ）の保有する株式を、投資ファンドのJIP（日本産業パートナーズ）に売却することを決定した。12月下旬から株式公開買い付け（TOB）を開始する。TOBが成立すれば三菱ロジは株式上場を廃止する。買収総額は1300億円になる見通しだ。

＜解説＞三菱ロジは1937年に2代目島津源蔵氏が設立した。島津源蔵氏は島津製作所の実質的な創業者。島津製作所の事業が軌道に乗った時点で当時の日本海軍からの要請でバッテリー（蓄電池）製造の会社として設立された日本電池（現在のGSユアサ）の関連会社として新設。当時は日本輸送機株式会社といい、蓄電池機関車、バッテリーフォークリフトの製造企業として成長した。戦後、石炭産業の勃興と共に地下の炭鉱から掘り出された石炭を地上に運ぶために、蓄電池で動く機関車やフォークリフトが必要だった。国産初のバッテリーフォークリフトを世に出したのも同社である。その後社名を、ニチユに変更し2013年に三菱重工のフォークリフト部門と経営統合した。2017年に現社名に変更し、東証スタンダードに上場。2025年３月期の売上は6655億円で世界第５位。今回三菱重工が三菱ロジを切り離し、親子上場も解消するのは、三菱重工がエネルギー事業や防衛産業などに経営資源を集中するのが目的。事業構造改革、ポートフォリオ戦略の組みなおしの一環。複数の投資ファンドに打診し、JIPが手を挙げた。全部の株式を有償譲渡し、その後300億円を出資する予定だ。三菱ロジは新しいパートナーを得て、次の戦略を描く。物流分野は新しい企業の参入や新規投資が活発に行われている。無人フォークリフトや物流自動化機器などの開発に多額の投資が必要だ。海外へのシステムの販売も加速する。JIPがTOBで全株式を保有できない場合は、スクイーズアウト（強制的な株式買い取り）を実施する予定。TOB予定価格は1株当り1537円で、現在の市場価格1815円を約15％下回るが、過去の株価に対し一定のプレミアムが付いていると三菱ロジ側は評価している。TOBに応募するかは、個々の株主の判断に任される。この株式売却で、三菱ロジが新しい戦略を描けるのか、さらなる成長を期待できるのかはJIPと三菱ロジとの考え方ひとつだろう。なお、雇用は現在のままを継続するという。島津源蔵氏が創業し、戦前、戦後と日本経済の発展に寄与してきた同社が今後どのような成長軌道に乗るのか。興味津々だ。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.